

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①ICT利活用授業研究推進校として、ICTの効果的な活用を生徒が自ら課題を発見し、主体的に学習を深めることと、一人ひとりの学力向上を図ることを目的とし、地域を軸とした研究の深化を図る。</p> <p>②新しい学習指導要領のスタートに向け、カリキュラムを見直しをさせる。</p> <p>③特別活動においても、生徒の主体的・対話的で深い学びを追求させる。</p>	<p>①基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実践に向けた効果的な利活用を引き続き研究する。</p> <p>①「ICT利活用授業研究推進校」としての取組を、様々な機会を通じて発信していく。</p> <p>②新学習指導要領のスタートに向け、本校の新しいカリキュラムを構築する。</p> <p>③特別活動を通して主体的・対話的で深い学びを育成する。</p>	<p>①生徒の基礎的な知識・技能の習得を継続的に実践し、協働学習の機会を積極的に活用し、積極的に発信していく。</p> <p>②教育課程検討WGを中心に、各教科と連携しながらカリキュラムを策定する。</p> <p>③学校行事・委員会活動等を通して、生徒の学びを反響させる。</p>	<p>①「神奈川県立高等学校生徒学力調査」結果などにおいて、昨年度の課題事項の数値に改善が見られたか。</p> <p>①本校のICTの取組を、発信することができたか。</p> <p>②新学習指導要領に向けた、本校の新しいカリキュラムを策定できたか。</p> <p>③行事アンケートの実施によって、生徒の達成感や学びの深まりを把握することができたか。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、臨時休校による授業評価遅延が、授業研究の機会を減らした。ICTの活用を推進し、授業の質を向上させる。</p> <p>②学習指導要領に合わせたカリキュラムの策定が完了した。</p> <p>③文化祭の実行委員が、生徒の達成感や学びの深まりを把握することができた。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実践を推進し、ICTの活用を促進する。</p> <p>①臨時休校中の学習保障は、ICT利活用授業の蓄積を生徒の必要に応じて再活用できる仕組みを検討して欲しい。</p> <p>②新カリキュラムとなる令和4年度に向けて組織的に準備を進めてほしい。</p> <p>④文化祭・体育祭は、生徒の達成感や学びの深まりを把握することができた。</p>	<p>①休校期間中においては、先生方のご尽力により、リモート授業等により、有為な時間を過ごせたと聞いている。進め方については、標準化する余裕は無かったと思われるが、AARを活用し、生徒からのフィードバックを含め、再びリモート授業を強いられた際に備えてほしい。F2F授業と比べ先生、生徒共に空気感を感じにくいと思われるので、リモート授業の課題改善に向け、取組んでもらいたい。</p> <p>②新カリキュラムとなる令和4年度に向けて組織的に準備を進めてほしい。</p> <p>③コロナ禍での学校行事は例年とは異なる工夫が求められ大変だと思うが、一層生徒の主体性を育成する場としてほしい。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染拡大及び臨時休校の影響もある中、予定していた授業改善の取組を実施できた。</p> <p>①臨時休校中の学習保障は、ICT利活用授業研究推進校としてのこれまでの蓄積を生かし、通常の授業とほぼ同等の内容を保障することができた。半面、リモート授業であるが故の課題や自主学習への応用など、検討課題も見つかった。</p> <p>②新学習指導要領に向けた、本校の新しいカリキュラムを年内に策定することができた。今後は、そのコンセプトを広く周知していく必要とともに、その実施に向け校内の体制を整えていく必要がある。</p> <p>③「文武両道」「質実剛健」を校訓とする本校において、学校行事・部活動・委員会活動等を通して人間形成を図る取組は十分機能していると考えられる。その一方、リーダーとして必要とされる主体性・計画性の部分について、やや弱みがある。</p>	<p>①教職員相互の授業参観の機会などを活用し、互いに学びあい、研鑽しあう機会を充実させ、授業力の更なる向上を図る。</p> <p>①ICT利活用授業第II期最終年度である来年度に、これまでの取組をさらに充実させるとともに、取組の結果を検証し今後生かしていく。</p> <p>②新しいカリキュラム初年度である令和4年度の入学生を迎えるまでに、そのコンセプトを広く周知し、学校全体で組織的に体制を整えていく。</p> <p>③生徒活動支援Gによる生徒への働きかけを密に行い、文化祭や体育祭などの学校行事の運営における生徒主体の場面をより多く設定し、生徒の主体性・計画性の育成をさらに進めていく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①安心・安全な生活環境の向上と、規範意識の醸成を図る。</p> <p>②知・徳・体を兼ね備えた人材の育成を目指す。</p> <p>③スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)等と連携して課題のある生徒に対する情報共有を図る。</p>	<p>①安全な生活環境の向上と、規範意識の醸成を図る。</p> <p>②豊かな心と健全な体を身に付け、将来に生かせる創造性・積極的な行動力を養う。</p> <p>③個別の教育的ニーズを抱える生徒への情報共有を確立させる。</p>	<p>①定期的に登下校指導、服装指導、集会を実施し生徒一人ひとりのモラルアップを目指す。</p> <p>②部活動等を通して、主体的に行動できる力と豊かな感性を育て、他者との協調性や地域社会に貢献していく資質を育む。</p> <p>③支援を必要とする生徒への迅速な対応のため、スクールカウンセラーや情報共有会議を有効に活用する。</p>	<p>①生徒の日常生活の観察や個人面談等による意識調査により、モラルアップが図れたか。</p> <p>②部活動等の実施に係るアンケート調査や個別面談によって、生徒の自己肯定感や達成感を把握できたか。</p> <p>③支援が必要な生徒の情報収集・共有ができたか。</p>	<p>①登下校指導・服装指導等は集会の実施が困難だった為、学年団や担任により日々粘り強く指導をした。</p> <p>②臨時休校の影響で年度当初の新入生の体験入部等が困難であったが、ICTを活用した部活動紹介等が功を奏し、新入生入部率は94%であった。</p> <p>③支援が必要な生徒の情報共有と対応が円滑に進められた。</p>	<p>①登下校時のマナーに関する近隣の苦情が例年になく多く寄せられた。コロナ禍の状況で指導方法を検討しつつ、生徒への啓発指導を根気強く続けていく。</p> <p>②部活動の入部率をあげ、また、コロナ禍において活動が制限される中、計画的に活動性を確保できた。</p> <p>③学年・担任・保健室、教育相談コーディネーター・SCとSSWとの連携が組織化され円滑に行われるよう検討する。</p>	<p>①コロナ禍の状況で、周囲への思いやりが大切でありそのような指導と、社会における子ども達の立場を考えて指導をしていただければならない。</p> <p>②部活動の活性化はありがたい。一方で、昨今労働環境としての指導者のあり方等も社会全体で話題となっている。本校としてはどう取り組まれているのか。</p> <p>③担任・保健室・教育相談コーディネーター・SCとの連携に加え地域の他機関との協力体制も探ってみてはどうか。</p>	<p>①登下校時の交通マナーについては定期的に指導にあたる必要がある。地域からの苦情が少なくなるように努めなければならぬ。</p> <p>②コロナ禍において、ICTを活用した部活動紹介により、新入生の入部率94%であるが、全校生徒の入部率は86%なので、2年生、3年生の部活動継続を推進していく必要がある。</p> <p>③支援が必要な生徒への支援体制や対応はできつつあるが、今後については、今年度の支援組織の振り返りから見直しが必要な点を検討する。</p>	<p>①本校は多くの生徒が自転車で通学していることもあり、より計画的に粘り強く交通安全指導を行っていく。</p> <p>②部活動内での人間関係、勉強との両立など、各部の顧問、生徒指導G、担任と連絡を取り合って、生徒の活動を支援していく視点に立って指導できる体制を構築する。</p> <p>③様々なケースに的確に対応できるように、SCやSSW、外部専門機関等との連携をより深めていく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①情報化・グローバル化に伴う社会や産業の構造変化と予測困難な時代に主体的に向き合って問題を解決できるキャリア教育を推進する。</p> <p>②進学校としての教育活動を進め、生徒がより高い目標を実現できるような体制を確立する。</p>	<p>①将来の展望を見据えて、進路意識を明確にするための働きかけを行う。</p> <p>②志望進路に関する探究学習と基礎学力の定着を目指し、卒業後の自己実現を図る。</p> <p>②グローバル社会で活躍する人材を育成するため、言語・習慣などが異なる人々との交流を積極的に行う。</p>	<p>①高大連携事業、職業人講話を通してキャリアプランを明確にする。</p> <p>②定期試験の振り返りを徹底させるとともに、模擬試験を活用し自己の課題を理解し主体的に問題を解決する姿勢を育成する。</p> <p>②カジョリーナ・シニアカレッジ(姉妹校・オーストラリア)との交流を通して、生徒のグローバルな視点で物事を考える力の向上を図る。</p>	<p>①アンケート調査等により生徒の進路意識の高揚がみられたか。</p> <p>②自己の課題解決に向けた主体的な活動ができたか。</p> <p>②姉妹校交流後のアンケートで、その取組や成果について、肯定的な回答をした生徒が80%以上いたか。</p>	<p>①各学年に実施した進路アンケートの結果によると概ね80%の生徒に進路意識の向上が見られた。新型コロナウイルスの影響で進路の取組が十分ではなかったが、定期的な進路だよりの情報提供や担任との面談の充実が図れた。</p> <p>②進路ワークシートの活用による進路学習や定期試験の結果の振り返りにより得意科目の伸長と不得意科目の改善を促し、模擬試験の結果と連動させ次年度の目標設定へ繋げさせた。</p> <p>③姉妹校交流は今年度は中止となった。</p>	<p>①講話や集会による進路行事が中止となる場合に備えた具体的な代替措置が必要である。アンケートによると自分の問題点・課題を残した。ICT利用を工夫し、主体的に進路学習を進める新しい取組を構築する。</p> <p>②模擬試験やGTECの分析方法の再検討が必要である。特に、担任が生徒個々の情報を分析し、適切な指導をするための研修や学習会を模索する。</p> <p>③コロナ禍の影響が長期化する中、姉妹校交流の具体的な実施方法を検討していく。</p>	<p>①情報化・グローバル化に伴う社会・産業構造の変化や価値観の変化による社会における生徒一人ひとりの個性の尊重や良い面を引き出す指導や一つに絞らない多様な評価軸で見ることが重要であると思う。</p> <p>②それぞれの将来の歩むべき進路に対して、より具体的な目的意識を育てるような自信を育むような指導、そしてGTECも含め様々な可能性を身につけてあげられるような指導が大切であると思う。</p> <p>③コロナ禍での直接的交流が難しい状況の中、メールやチャット等の交流により、多くの生徒が姉妹校交流に関わる機会を増やすことができるのではないかと。</p>	<p>①3学年について大学入学共通テスト元年の受験について、大学入試英語成績提供システムの新規、記述式問題の影響下による臨時休業など全国的に翻弄された年度だったが、担任の進路指導や限定された進路集会の機会を工夫し、それぞれの成果を上げたが、情報提供が遅れがちだった。</p> <p>②1・2学年について将来の自分を見据えた進路指導を心掛け、総合的な探究の時間の学習を通して、進路学習を展開して、卒業後の進路実現に向けての動機付けとそれぞれの展望を構築できたと思われるが、体験的な学習の機会が少なかった。</p> <p>③姉妹校交流は、コロナ禍の影響で中止となった。影響が長期化する中、姉妹校交流の具体的な実施方法を検討していく。</p>	<p>①従来の集会形式による指導にこだわらず、動画配信や校内放送、計画的に進路の情報を提供するシステムを早急に整える。</p> <p>①学年会等を利用し、担任・副担任への進路研修を企画し、職員個々の情報交換や共有を通して本校としての進路指導の質を高める工夫を考える。</p> <p>②多様化する進路実現に向けて、生徒個々の学習状況の把握だけではなく、心のケアを伴った指導により生徒の学力を含む総合的な能力向上が期待できる取組を工夫する。</p> <p>③コロナ禍等で直接訪問することや受入れが困難な状況下でも可能な姉妹校交流のあり方を模索していく。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域との連携をより深めるとともに、地域と協働し、学校の人材育成や地域の活性化に積極的に取り組む。</p> <p>②地域の方々や保護者、在校生や卒業生など学校に関わる人が応援したくなる、魅力ある学校の広報、情報発信の充実を図る。</p>	<p>①地域への関わりを広げるために生徒への情報提供を工夫していく。</p> <p>②学校に関わる人が魅力を感じることができている情報発信の充実に取り組む。</p>	<p>①ボランティアや地域行事の情報提供を積極的に行い、地域との関わりを広げていく。</p> <p>②生徒や教職員の日頃の取り組みを、ホームページを通じて積極的に配信していく。</p> <p>②学校説明会では、在校生の活躍の場面を増やし、学校の魅力が伝わるよう工夫する。</p>	<p>①ボランティアや行事の参加人数を増加させることができたか。</p> <p>②ホームページにおいて、年間を通じて、的確に新しい情報配信ができたか。</p> <p>②学校説明会のアンケート結果において学校の魅力を9割以上が肯定的に感じる事ができたか。</p>	<p>①新型コロナウイルスの影響により、ボランティア活動や地域行事はすべて中止となった。</p> <p>②臨時休校期間中に行ったICT授業の取組等を中心に積極的に情報配信した。</p> <p>③学校説明会を感染予防として、10、11月に加え、午前午後2部制で行い学校の魅力を伝えることが出来た。</p>	<p>①各種行事・活動が再開された場合には積極的に情報を提供し、相互の関わりを広げていく。</p> <p>②部活動や学校行事など、学校全体でホームページによる発信を増やしていく。</p> <p>③生徒の参加が制限され、動画を制作するなどしたが、さらに学校の魅力を伝えるためにどうするか検討する。</p>	<p>①地域との協働作業はコロナ禍では制限があるが、団体活動が解禁されるまでは各個人が地域や他者のために可能な範囲で奉仕活動を実施すれば良いと思う。</p> <p>②地域の文化や歴史等の視点を各種行事の中で扱っていただきたい。ホームページなど更新した際には希望者にはSNSやメールなどで通知される仕組みを作れるとよい。</p> <p>③情報発信の工夫など、色々取り組まれていることは評価したい。</p>	<p>①団体活動が制限され、ボランティアや地域行事は中止となった。そのような中で、ホームページで学校での活動を載せていった。様々な角度から考え、どのような取組ができるのか、工夫が足りなかった。</p> <p>②ホームページにおいて、情報発信や行事など積極的に発信した。部活動や学校での研修会や講習会などの取組についても発信しきれていないものがあった。</p> <p>③制限のある中で、動画制作など工夫して生徒が間接的に参加できるよう工夫した。内容については、様々な視点で改善をしていく。</p>	<p>①団体活動に捉われず、個人で何ができるのかを協議し、地域や他者のためになる個人活動を提案していきけるのではないかと。また、団体活動が再開された際にすぐに動けるよう準備が必要である。</p> <p>②ホームページにおいて、情報発信など新鮮な情報を載せていくために、各グループにおいて担当を決めるだけでなく、活動とホームページ更新をセットになるよう工夫していく。</p> <p>③引き続き、学校の魅力を伝えられるよう工夫するとともに、中学生やその保護者のニーズに応えられるように工夫していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒・教職員ともに安全・安心で快適な教育環境の整備・充実を進め、学習活動・部活動・学校行事等の活性化を図る。</p> <p>②不祥事防止の取組を組織的に進めるとともに、働き方改革の推進により教職員が教育活動の充実に向き合い、信頼に根ざした学校づくりを進める。</p>	<p>①生徒・職員の防災意識の向上及び感染症防止の取組を進め、安全・安心な教育環境の整備を進める。</p> <p>②不祥事防止及び働き方改革を進めるため、耐震化工事に伴う職員室の仮設校舎移転を機に、より効率的・機能的な職場環境づくりを進める。</p>	<p>①防災訓練を通じて防災意識の向上を図るとともに、新型コロナウイルス感染症防止の取組を日常的に進め、生徒・職員一丸となって安全・安心な学校づくりを進めていく。</p> <p>②行政文書や会計書類の保管体制を点検する。職員室の移転を機に書類の散逸や誤廃棄などの不祥事を予防し機能的に校務が遂行できるような職場環境づくりを進めていく。</p>	<p>①災害への備えに取り組むとともに、感染症対策について具体的な取組を進め、安全・安心な学校づくりを進めたか。</p> <p>②仮設校舎移転を踏まえて、行政文書や会計書類の保管体制の改善を図ることができたか。</p>	<p>①感染防止の取組が日々の教育活動の中でも常に意識され、学校全体として推進できた。避難訓練は学年別に分散して実施した。</p> <p>②仮設校舎移転を機に、機能的な職場環境を整備した。文書の保管体制についても見直しを図り、改善された。</p>	<p>①今後も長期にわたり新型コロナウイルス感染拡大防止を前提として、安全・安心を確保できる教育環境づくりについて具体的に、継続的に進めていく。</p> <p>②書類の散逸や誤廃棄などの不祥事を未然に予防できる職場環境づくりを、引き続き職員一丸となって進めていく。</p>	<p>①コロナ禍における安全・安心な教育環境の整備を、組織的に取り組んでいる。引き続き、家庭とも連携し、生徒・保護者・地域に丁寧な説明しながら取組を進めてほしい。</p> <p>②書類の保管体制等の点検を含めて、誤廃棄等の不祥事は未然に防止するという視点で引き続き取り組んでもらいたい。</p>	<p>①コロナ対策ワーキンググループを創設し、状況が刻々と変化する中、機動的な対応を図ることができた。「withコロナ」の学校生活が2年目となる次年度は、防災訓練も含めてあらゆる教育活動をどう実施し、進めていくかが大きな課題である。</p> <p>②仮設校舎移転は職員室の文書整理のあり方を見直し、機能的な職場環境へと改善する契機となった。今後も事故防止会議等を通じて組織的に文書の保管体制を点検する体制を維持していく。</p>	<p>①感染防止の取組を、生徒自身にも主体的に考えさせ、職員だけでなく委員会活動等と連携し、学校全体で取り組む機運の醸成を図っていく。</p> <p>②令和3年度に予定されている仮設校舎から本校舎に戻る機会を捉えて、再度、書類の散逸や誤廃棄を防ぐ体制構築を図るとともに、不祥事ゼロプログラムに基づき職員が主体的に事故防止に取り組んでいく。働き方改革や業務改善の視点で、ICTを活用し校務の効率化に積極的に取り組んでいく。</p>